

第5回 日本海における大規模地震に関する調査検討会 議事要旨
日時：平成26年1月14日（月）15：00～17：00
場所：中央合同庁舎2号館 低層棟1階 共用会議室3A・3B

1. 結果概要

- 事務局に内閣府（防災担当）と文部科学省が参画することとなった。
- 海底断層WGより佐渡から北海道にかけての主要な海底断層の位置や長さに関する検討状況の報告があり、作業方法等について概ね了解が得られた。

2. 主な説明や意見等

(1) 調査検討会における検討状況

- ・事務局に内閣府（防災担当）と文部科学省が参画することが報告された。

(2) 海底断層WGにおける検討状況

- ・佐渡から北海道にかけての主要な海底断層の位置や長さに関する検討状況の報告があり、作業方法等について概ね了解が得られた。
- ・セグメント分けについては、地質構造等を考慮しながら、検討する。
- ・北海道南西沖地震は、断層面を設定して既往モデルとの比較検討を行う。しかし対応する断層を海底地形等のデータから読み取るのが難しく、評価が難しい地震であるとの意見が出た。

- ・日本海は沿岸に近い海底断層があり、大すべり域の設定が津波の高さに大きく影響するので、慎重に検討する必要があるのでは。
- ・日本海東縁における既往地震の解析結果より、本検討会ではMwと平均すべり量のスケーリングは4.6m(Mw7.7相当)で飽和することで検討する。
- ・北海道南西沖地震や日本海中部地震は、津波堆積物から見ると、1000年に1回程度の発生頻度であり、L2に該当するという指摘がある。スケーリングの検討にあたっては、規模が大きくなりすぎないように気をつける必要がある。
- ・強震動は検討する予定はない。津波浸水想定条件設定に必要な地震の考え方を整理する。

以上